

## Welcome Remarks

### SAKAIDA Teruya

Director-General, Agriculture, Forestry and Fisheries Research  
Council Secretariat, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries  
(MAFF)



皆様、こんにちは。

ただいまご紹介を賜りました、農林水産省 農林水産技術会議事務局長の堺田 輝也でございます。

このたびは、「JIRCAS 国際シンポジウム 2024」が無事に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

さて、世界では、気候変動などの影響により、食料需要の増加、食料生産・供給の不安定化がますます顕著になりつつあります。

今夏は、観測史上最も高い平均気温を記録するなど、日本各地で高温による農産物の生育不良や病害虫の発生など、農業現場に大きな影響を及ぼしているところであります。

また、海外でも異常気象の発生により大きな被害がもたらされていると聞いております。

このように、我が国を含め世界的な課題である気候変動に対応した強じんを持続可能な農業生産を実現し、食料安全保障の確保を進めていくことは、非常に重要な課題であります。

このような中、日本においては、2021年5月に決定した「みどりの食料システム戦略」に基づき、2050年を目標年としたKPIを掲げ、調達、生産、流通、消費のフードチェーン全体で、生産力向上と持続性を両立する取組を進めております。

また、本年5月、食料・農業・農村基本法を四半世紀ぶりに改正し、「食料安全保障の強化」や「環境と調和のとれた食料システムの確立」等を新たな柱に位置付け様々な施策を展開することとしています。

本日のシンポジウムでは、強靱な食料システムの構築に向けて、遺伝資源の多様性保全と活用、国際的な連携強化について、当分野で大変活躍されておられる方をお招きしての講演ならびに議論が行われる予定と伺っております。強じんを持続可能な農業生産の実現に向け、様々な視点から議論を深められる大変良い機会になることを期待しております。

最後になりましたが、本日のこのシンポジウムが実りあるものとなりますとともに、ご出席の皆様の益々のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げ、私のあいさつを結ばさせていただきます。本日はまことにおめでとうございます。

